



ITに関する意識調査

2024 Mar.

ネットワークシステムズ 株式会社

2024/7/12 公開

- 1 調査概要**
 - 1. 調査設計
 - 2. 対象者プロフィール
 - 3. 設問一覧

- 2 調査結果**
 - 1. 所属企業についての調査
 - 2. 回答者個人の業務についての調査

- 3 まとめ**

1

調査概要

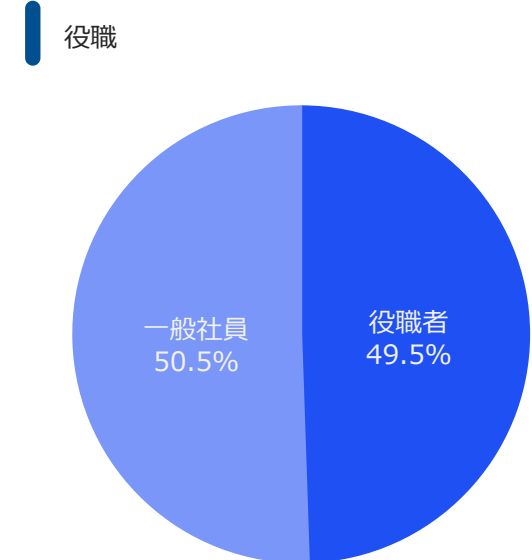
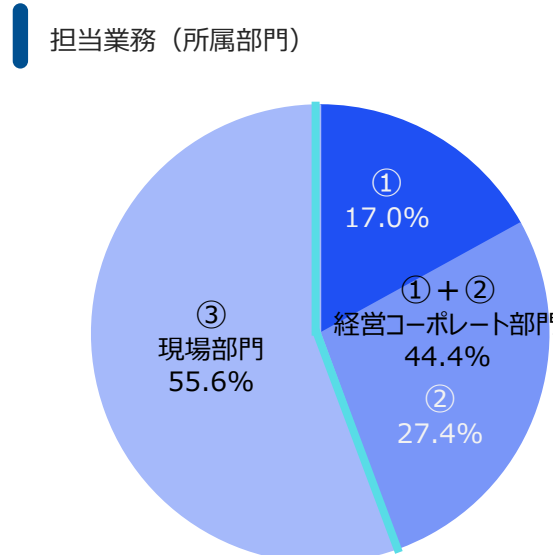
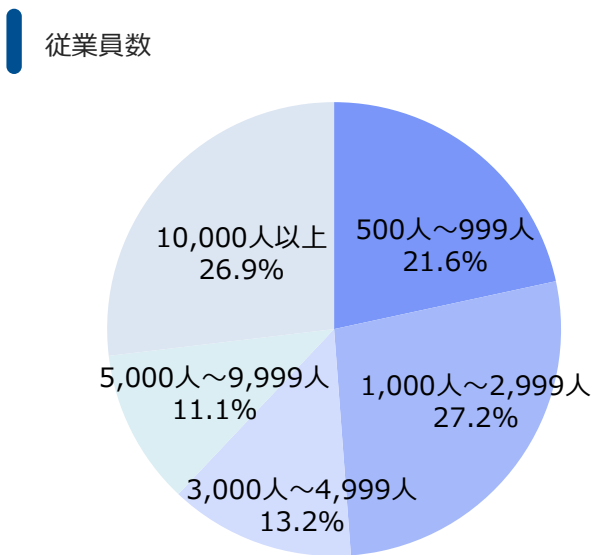
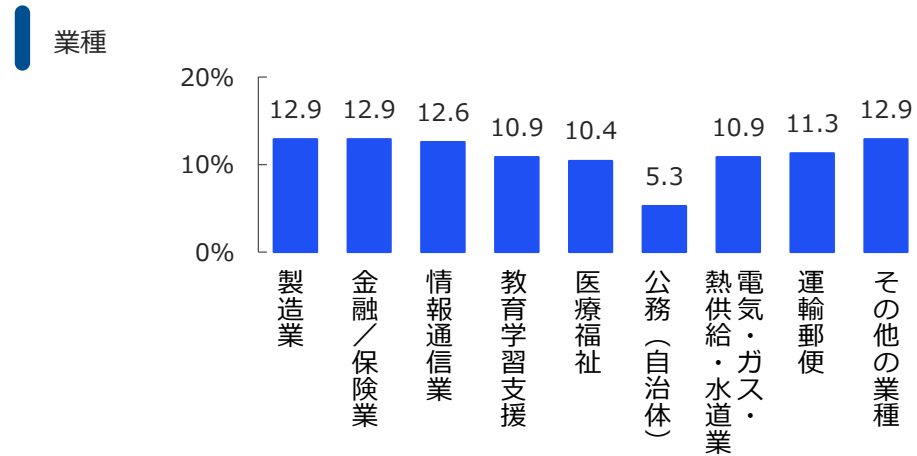
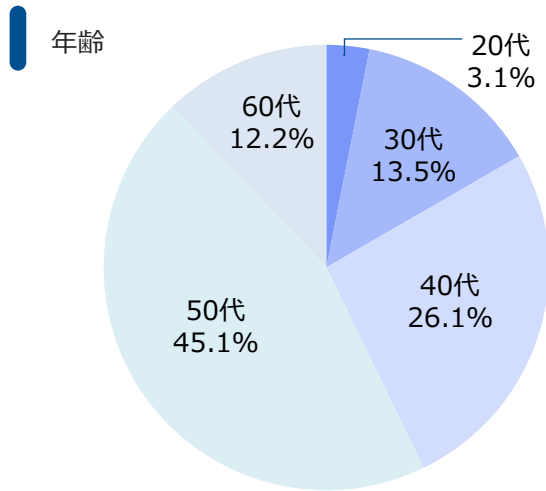
- 1. 調査設計
- 2. 対象者プロフィール
- 3. 設問一覧

-1. 調査設計

調査目的	「AI技術、グリーンIT/SDGs」について働く人（業種、役職、部門別）の考え等を把握し、業界ごとの関心や認識の向上に寄与。また、レポートを通じて今後の展望について考察を提供し、社会活動への貢献を促進することを目的とする。						
調査エリア	全国						
調査対象条件	性別：男女 年齢：20歳-69歳 従業員数500人以上の企業の会社員 その他条件：業種（9つ）×役職（2つ）×部門（2つ）の合計36割付のいずれかにあてはまる人						
サンプル数・割付	<table border="1"><thead><tr><th colspan="2">単位：サンプル</th></tr><tr><th>割付</th><th>回収数</th></tr></thead><tbody><tr><td>上記条件合致者</td><td>930</td></tr></tbody></table>	単位：サンプル		割付	回収数	上記条件合致者	930
単位：サンプル							
割付	回収数						
上記条件合致者	930						
調査期間	2024年3月25日（月）～2024年3月26日（火）						
調査手法	クロス・マーケティングモニターへのインターネット定量調査						
調査機関	株式会社クロス・マーケティング						
レポート内用語定義	<p>経営コーポレート部門：「あなたの普段の業務で最もあてはまるもの」という設問で以下のいずれかで回答した人</p> <ul style="list-style-type: none">①企業においてグリーンITやSDGsの活動について社内へ提言し、企画、推進する（立場）②AIなどのIT技術を社内に導入するために情報収集や比較検討を行い、導入後も実際の運用に携わる（立場） <p>現場部門：③上記に該当しない部門や役割で従事している と回答した人</p> <p>TOP2：5段階選択肢のうち、「非常にそう思う」と「そう思う」等のポジティブ側2項目で回答した人の合計</p> <p>BTM2：5段階選択肢のうち、「そう思わない」と「全くそう思わない」等のネガティブ側2項目で回答した人の合計</p>						

-2. 対象者プロフィール

(n=930)



- ①企業においてグリーンITやSDGsの活動について社内へ提言し、企画、推進する
- ②AIなどのIT技術を社内へ導入するために情報収集や比較検討を行い、導入後も実際の運用に携わる
- ③上記に該当しない部門や役割で従事している

-3. 設問一覧

設問No.	設問内容	回答方法
	【あなたが属する企業/組織/業界についてお尋ねします。】	
Q1	AI技術は自らの業界に革新をもたらすと思いますか。	5段階から単一選択 「非常にそう思う」「そう思う」「どちらともいえない」 「そう思わない」「全くそう思わない」
Q2	これからの未来、企業とAIとの共存についてイメージすることについてあてはまるものをそれぞれお知らせください。 ①人件費削減に寄与すると思う ②業務効率化に寄与すると思う ③ヒューマンエラー／オペレーションリスクの低減に寄与すると思う ④ワークライフバランスがより理想的なものになると思う ⑤テクノロジーが生み出す需要による新たな仕事が創出されていくと思う ⑥環境問題などの社会課題の解決に役立つと思う ⑦まだ信用できる水準ではない ⑧従来の職種が減少すると思う ⑨能力不足により変化に対応できない労働者がでてくる可能性がある ⑩サイバー攻撃などがより高度になり、セキュリティリスクが増大すると思う	左記①～⑩の項目について、それぞれ5段階から単一選択 「非常にあてはまる」「あてはまる」「どちらともいえない」 「あてはまらない」「全くあてはまらない」
Q3	あなたが属する企業または組織は、AI技術を導入／活用していますか。	単一選択 「実務へ導入／活用している」 「試験的に利用している、実務活用は検討中」「1年以内に導入／活用開始予定」 「導入／活用していない」「わからない」
Q4	前問(Q3)で【「実務へ導入／活用している」「試験的に利用している、実務活用は検討中】とお答えいただきましたが、どの程度の範囲で導入／活用(を予定)していますか。あてはまるものをすべてお知らせください。	複数選択 「データ分析や予測分析」「自動化されたプロセスや作業」 「顧客サービスやチャットボット」「セキュリティ対策」 「製品開発やイノベーション」マーケティング」 「ロボティクスや自動運転などの物理的な活用」 「従業員のパフォーマンス分析などの人材管理」 「「グリーンITやSDGs目標達成への取り組みへの寄与」「その他」
Q5	前問(Q3)で【「導入／活用していない」「わからない】とお答えいただきましたが、その阻害要因はどこにあると感じますか。あてはまるものをすべてお知らせください。	複数選択 「セキュリティ・ガバナンスの問題」「導入コスト」 「技術的な知識やスキルの不足」「法的・規制上の制約」 「データの品質担保や整備の難しさ」「組織体制のアンマッチ」 「従業員の抵抗や教育の必要性」「人財不足」 「著作権などの権利的な問題」「その他」

-3. 設問一覧

設問No.	設問内容	回答方法
Q6	企業とAIが共存する未来に向けて、あなたが属する企業または組織における人材育成は十分に行われている、または行う準備があると現在感じますか。	5段階から単一選択 「非常にそう思う」「そう思う」「どちらともいえない」 「そう思わない」「全くそう思わない」
Q7	あなたが属する企業または組織は、グリーンIT（環境に配慮した情報技術）を導入または活用していますか。	単一選択 「はい」「導入が予定されている」「いいえ」「わからない」
Q8	あなたが属する企業または組織は、今後グローバル基準で要求されてくるグリーンIT/SDGs基準を達成する準備が十分だと感じますか。	単一選択 「十分対応可能だと思う」 「対応していく為には大きな変革が必要になると思う」 「対応できない可能性があると思う」
Q9	あなたが属する企業または組織が、グローバル基準で要求されてくるグリーンIT/SDGs基準を達成する為にはどのような支援・対応が必要だと思いますか。あてはまるものをすべてお知らせください。	複数選択 「政府からの支援」「産業界や学界との連携」 「AI技術等の研究開発の推進」「その他」
Q10	AI技術はグリーンIT/SDGsの分野にどのような観点で貢献すると思いますか。あてはまるものをすべてお知らせください。	複数選択 「エネルギーの効率的な利用を可能にする」 「リサイクルや廃棄物管理などのプロセスを最適化する」 「環境への負荷を削減する製品/サービスの開発を促進する持続可能なエネルギー源の開発/活用を支援する」 「その他」 「AIは地球環境の保全には貢献しない」
Q11	あなたが属する企業または組織がAI技術をグリーンITとして導入する際、その阻害要因はどこにあると感じますか。	複数選択 「技術的な複雑さ」「導入コストの高さ」 「データのセキュリティとプライバシーの懸念」 「経営層意識の問題」「人材のスキル不足」 「法規制や規制要件の不明確さ」「その他」
Q12	AI技術はあなたの働き方に革新をもたらすと思いますか。	5段階から単一選択 「非常にそう思う」「そう思う」「どちらともいえない」 「そう思わない」「全くそう思わない」

設問No.

設問内容

回答方法

【ここからはあなたご自身の業務についてお尋ねします。】

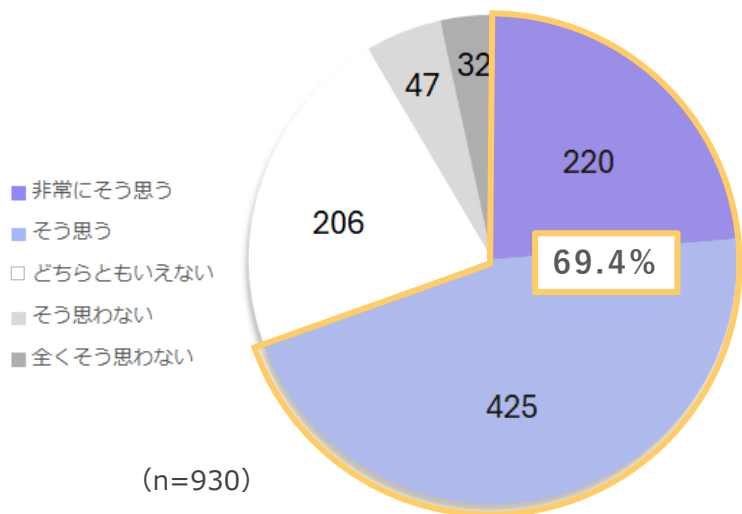
- | | | |
|-----|--|---|
| Q13 | これからの未来、企業とAIとの共存についてイメージすることについてあてはまるものをそれぞれお知らせください。
①自身の仕事の自動化や効率化につながると思う
②自身の仕事の質や効率が向上すると思う
③自身のワークライフバランスがより理想的なものになると思う
④新技術を通じて環境問題などの社会課題の解決に自身も寄与する事ができると思う
⑤新たなキャリアや職種が誕生する可能性があると思う
⑥自身の仕事が置き換えられる可能性があると思う
⑦自身の能力不足により置いて行かれる不安がある
⑧セキュリティリスクが増大する事による課題対応労力が増大すると思う | 左記①～⑩の項目について、それぞれ5段階から単一選択
「非常にあてはまる」「あてはまる」「どちらともいえない」「あてはまらない」「全くあてはまらない」 |
| Q14 | あなたは、これからの未来において様々な変革の中心を担う人財になっていきたいと思いませんか。 | 5段階から単一選択
「非常にそう思う」「そう思う」「どちらともいえない」「そう思わない」「全くそう思わない」 |
| Q15 | 仕事とAIが共存する未来に向けて、あなた自身は新たな技術習得や知識を身に付けていきたいと思いませんか。 | 単一選択
「新たな分野でも積極的に学んでいきたい」
「必要に応じて学んでいきたい」
「求められる範囲のみの学習にとどめたい」
「できれば自分が進みたい分野で専門性を身に付けていきたいので今のところ学ぶつもりはない」
「学びたいとは思わない」 |

2

調査結果

-1. 所属企業についての調査

Q1 AI 技術は自らの業界に革新をもたらすと思いますか？



■TOP2「非常にそう思う」または「そう思う」が645人:約70%と全体的に肯定傾向

■金融／保険業、情報通信業のTOP2スコアが最も高い ①

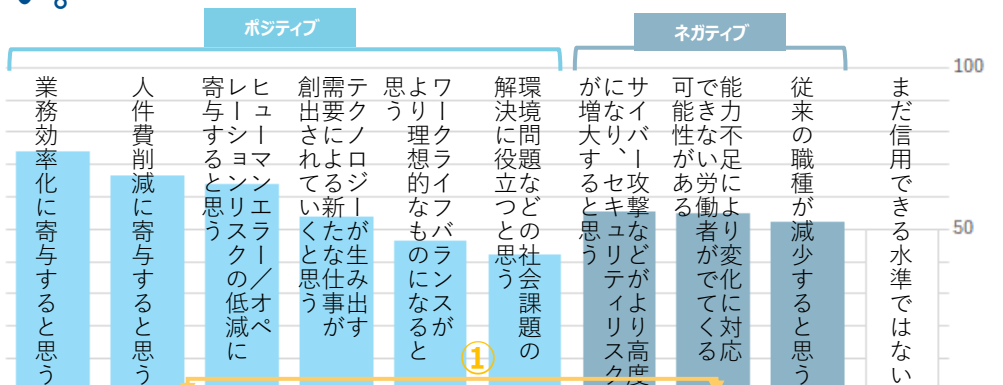
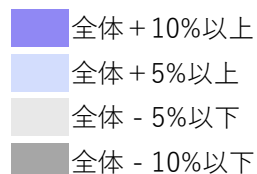
■教育学習支援の「非常にそう思う」が最も低い ②

■経営コーポレート部門／役職者においてはTOP2スコアが86%を超えたが、現場部門／一般社員は50%強にとどまっており、差がみられる ③

	人数	TOP2			BTM2			(%)
		非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない		
全体	930	23.7	45.7	22.2	5.1	3.4		
業種	製造業	23.3	48.3	24.2	3.3			
	① 金融／保険業	26.7	50.8	17.5	3.3			
	情報通信業	33.3	43.6	13.7	5.1	4.3		
	② 教育学習支援	13.9	52.5	21.8	5.9	5.9		
	医療福祉	24.7	38.1	25.8	7.2	4.1		
	公務（自治体）	30.6	28.6	28.6	6.1	6.1		
	電気・ガス・熱供給・水道業	22.8	41.6	27.7	6.9			
	運輸郵便	23.8	43.8	21.0	6.7	4.8		
	その他の業種	16.7	52.5	24.2	2.5	4.2		
部門／役職	経営コーポレート部門／役職者	40.4	46.0	9.9	1.9			
	経営コーポレート部門／一般社員	31.5	47.5	18.5	2.0			
	現場部門／役職者	16.2	49.8	24.3	6.1	3.6		
	現場部門／一般社員	11.5	40.4	32.6	8.9	6.7		

Q2 これからの未来、企業とAIとの共存についてイメージすることについて あてはまるものをそれぞれお知らせください。

各設問の回答総数を100%とし
TOP2「非常にそう思う」「そう思う」回答数の割合を表示

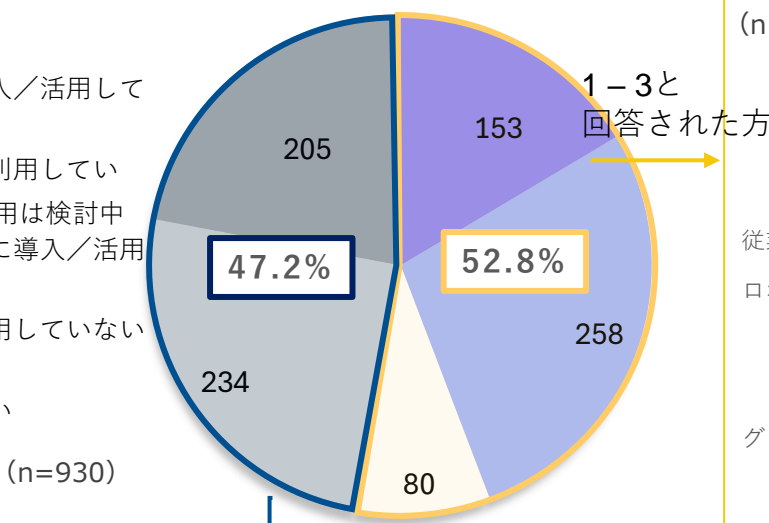


		全体	業務効率化に寄与すると思う	人件費削減に寄与すると思う	寄与すると思う	レビュー/オンライントーク/セミナー/スクールの低減に寄与すると思う	ヒューマンエラーの低減に寄与すると思う	創出される新たな仕事があると思う	需要による新たな仕事があると思う	テクノロジー/ロボット/AIが生まれると思う	より理想的なものになると思う	ワークライフバランスがとれると思う	環境問題などの社会課題の解決に役立つと思う	サイバー攻撃などがより高度化すると思う	可能性がある労働者がでてくると思う	能力不足により変化に対応できない労働者がでてくると思う	従来職種が減少すると思う	まだ信用できる水準ではない
		930	74.0	66.9	64.2	54.1	46.2	42.4	55.7	54.8	52.2	49.8						
全体		930	74.0	66.9	64.2	54.1	46.2	42.4	55.7	54.8	52.2	49.8						
業種	② 金融／保険業	247	73.3	70.8	64.2	60.0	46.7	46.7	58.3	59.2	57.5	54.2						
	③ 医療福祉	120	78.4	59.8	69.1	54.6	52.6	33.0	68.0	69.1	57.7	56.7						
	製造業	270	76.7	70.0	66.7	53.3	40.8	42.5	55.0	50.0	50.8	44.2						
	情報通信業	200	76.1	70.9	63.2	61.5	49.6	48.7	60.7	49.6	46.2	54.7						
	教育学習支援	213	67.3	62.4	62.4	48.5	44.6	36.6	51.5	55.4	45.5	49.5						
	公務（自治体）	105	71.4	69.4	51.0	57.1	44.9	49.0	53.1	49.0	57.1	42.9						
	電気・ガス・熱供給・水道業	101	70.3	67.3	64.4	46.5	48.5	39.6	48.5	55.4	52.5	43.6						
	運輸郵便	49	78.1	69.5	67.6	54.3	45.7	42.9	52.4	54.3	59.0	50.5						
	その他の業種	97	72.5	61.7	62.5	50.8	43.3	43.3	52.5	50.8	46.7	48.3						
	部門／役職	経営コーポレート部門／役職者	213	81.2	73.7	70.0	64.8	55.9	54.5	64.3	65.7	62.0	53.1					
経営コーポレート部門／一般社員		200	75.5	76.0	69.0	58.0	53.5	48.5	55.5	56.5	56.0	48.0						
現場部門／役職者		247	73.7	63.6	63.6	52.2	41.3	34.8	54.7	53.8	48.6	51.0						
現場部門／一般社員		270	67.4	57.8	56.7	44.4	37.8	35.2	50.0	45.9	44.8	47.4						

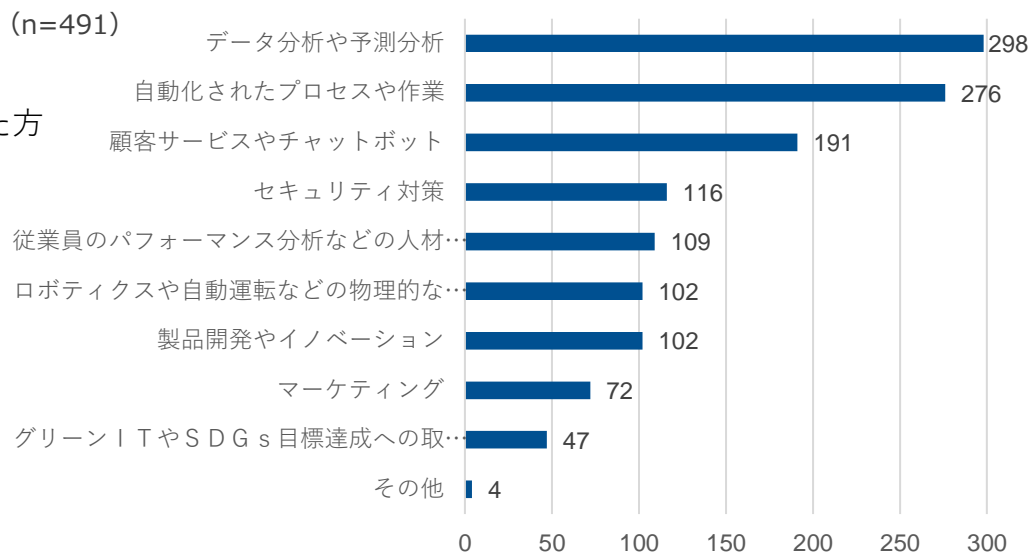
- ポジティブ意見の方が高い傾向だが、一方でネガティブ意見も50%超えであり、期待を持つ一方で同時に不安も感じている ①
- 金融／保険業においてはポジネガ両方において従来の仕事に変化が起これると感じる意見が平均より高い ②
- 医療福祉においてはネガティブ意見が平均より高く、また人件費削減への期待も平均より低い ③
- 経営コーポレート部門、特に役職者においては全体のTOP2回答が平均的に高く感度が高いように見受けられるが、現場部門は全体的に低く、特に一般社員においてはほぼすべての回答で全体より-5%以下、ここでも差がみられる ④

Q3 AI技術を導入／活用していますか？

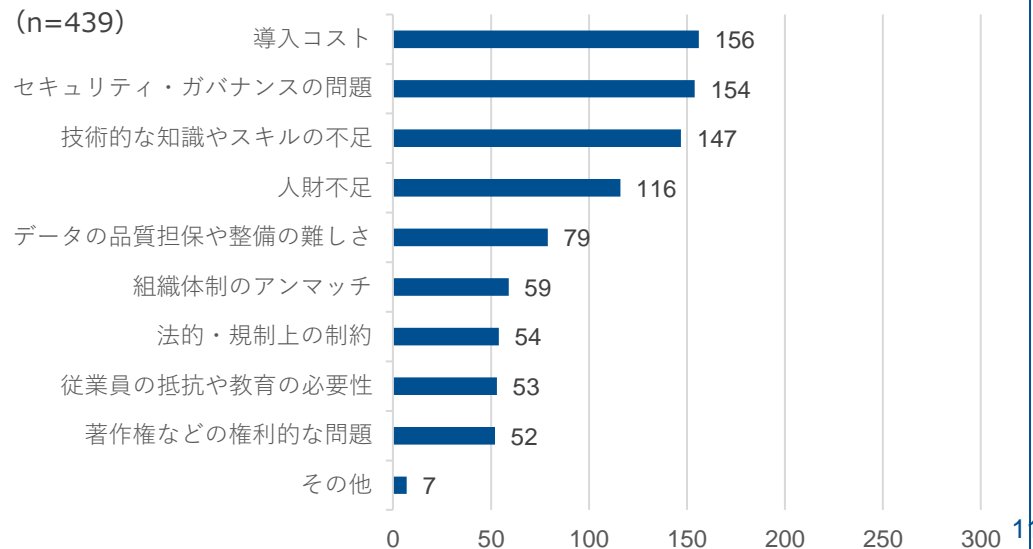
- 1.実務へ導入／活用している
- 2.試験的に利用している、実務活用は検討中
- 3.1年以内に導入／活用開始予定
- 4.導入／活用していない
- 5.わからない



Q4 どの程度の範囲で導入／活用（を予定）していますか。（複数回答可）



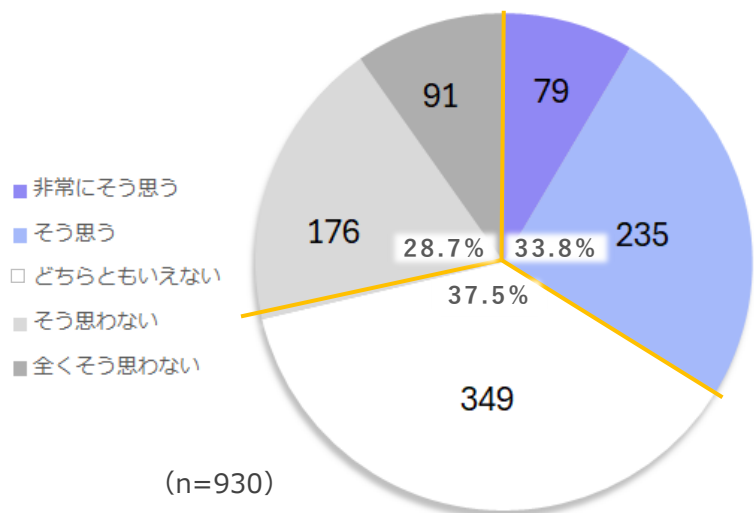
Q5 その阻害要因はどこにあると感じますか。（複数回答可）



■実際に導入または検討を行っているという意見が50%を超えており、その多くが「データ分析や予測分析」、「自動化されたプロセスや作業」に対する導入や活用（予定を含む）をおこなっている

■一方、47.2%の回答者が、AI技術を導入していない、またはその状況についてわからないと回答している

Q6 企業とAI が共存する未来に向けて、人財育成は十分に行われている、または行う準備があると現在感じますか。

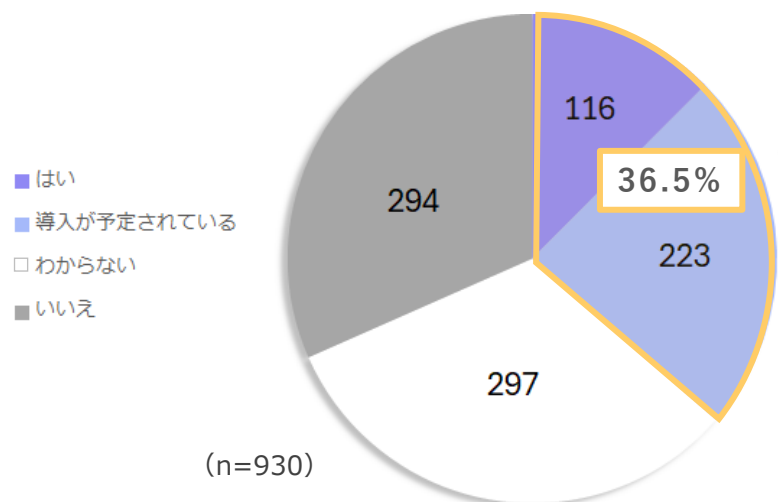


■ 「どちらともいえない」が最も回答が多かったが、全体では「(非常に) そう思う」と「(全く) そう思わない」とでほぼ三分する結果となっている

- 情報通信業のTOP2「非常にそう思う」「そう思う」スコアが最も高い ①
- 教育学習支援のTOP2は23.8%と最も低く、またBTM2も40.6%と最も高い ②
- 経営コーポレート部門、特に役職者においてはTOP2スコアが平均より高かったが、現場部門、特に一般社員においては平均より低く、認識の差がみられる ③

	n	TOP2			BTM2		(%)
		非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	
全体	930	8.5	25.3	37.5	18.9	9.8	
業種	製造業	7.5	29.2	40.8	14.2	8.3	
	金融／保険業	10.0	28.3	30.8	22.5	8.3	
	① 情報通信業	9.4	35.9	32.5	15.4	6.8	
	② 教育学習支援	5.0	18.8	35.6	29.7	10.9	
	医療福祉	10.3	17.5	37.1	20.6	14.4	
	公務（自治体）	10.2	14.3	59.2	10.2	6.1	
	電気・ガス・熱供給・水道業	5.9	23.8	44.6	16.8	8.9	
	運輸郵便	12.4	18.1	30.5	25.7	13.3	
	その他の業種	6.7	31.7	39.2	12.5	10.0	
	部門／役職	経営コーポレート部門／役職者	18.3	40.4	23.0	15.0	3.3
経営コーポレート部門／一般社員		14.5	31.5	32.5	13.0	8.5	
現場部門／役職者		3.2	17.8	41.3	25.9	11.7	
現場部門／一般社員		15.6		49.3	20.0	14.1	

Q7 グリーン IT（環境に配慮した情報技術）を導入または活用していますか。



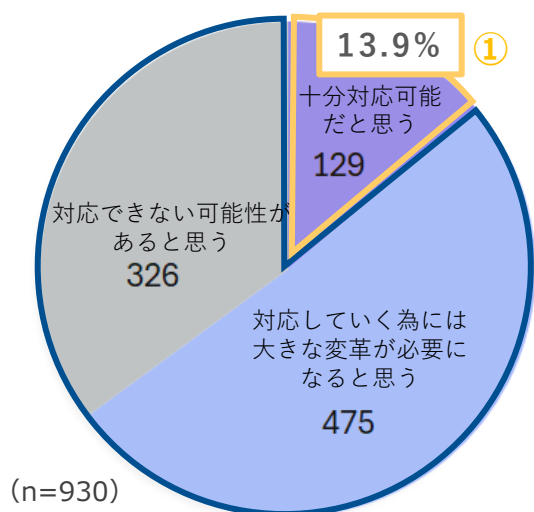
■「はい」または「導入が予定されている」と回答した人は全体の36.5%

■教育学習支援、医療福祉において「はい」「導入予定」は平均より低く、①
また「いいえ」も他の業種より高い

■経営コーポレート部門において「はい」「導入予定」は平均より高く6割を超え、
また「わからない」は平均よりかなり低いが、
現場部門においては「はい」「導入予定」が全体平均の半分以下と低く、②
また「わからない」が平均より10%以上高い

		はい	導入が予定されている	わからない	いいえ
全体		12.5	24.0	31.9	31.6
業種 ①	製造業	11.7	32.5	33.3	22.5
	金融／保険業	11.7	26.7	32.5	29.2
	情報通信業	21.4	23.9	26.5	28.2
	教育学習支援	6.9	20.8	31.7	40.6
	医療福祉	7.2	13.4	33.0	46.4
	公務（自治体）	17.8	23.8	37.6	20.8
	電気・ガス・熱供給・水道業	8.2	26.5	30.6	34.7
	運輸郵便	9.5	19.0	35.2	36.2
	その他の業種	14.2	27.5	27.5	30.8
	部門／役職 ②	経営コーポレート部門／役職者	21.1	45.5	10.3
経営コーポレート部門／一般社員		16.5	42.0	15.5	26.0
現場部門／役職者		8.9	10.1	44.5	36.4
現場部門／一般社員		5.9	6.3	49.6	38.1

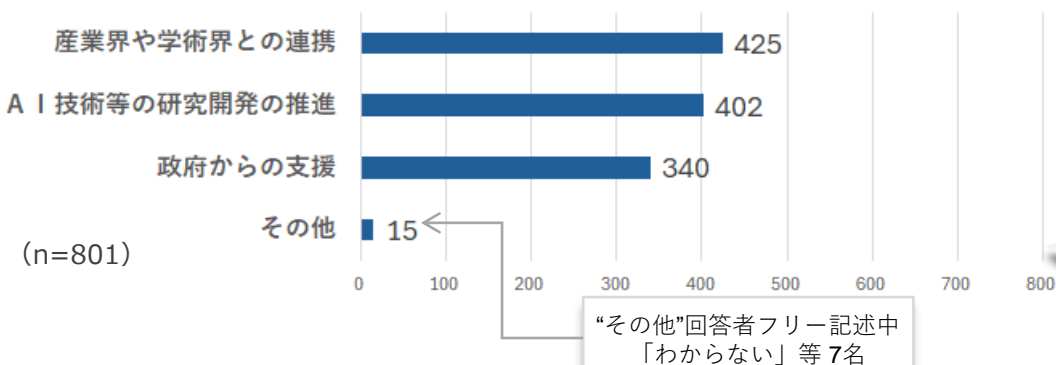
Q8 今後グローバル基準で要求されてくるグリーンIT／SDGs 基準を達成する準備が十分だと感じますか。



		③	十分対応可能	対応していくためには大きな変革が必要	対応できない可能性がある	(%)
全体		930	13.9	51.1	35.1	
業種	② 製造業	120	13.3	50.8	35.8	
	金融／保険業	120	9.2	61.7	29.2	
	情報通信業	117	28.2	49.6	22.2	
	教育学習支援	101	6.9	53.5	39.6	
	医療福祉	97	7.2	47.4	45.4	
	公務（自治体）	49	12.2	46.9	40.8	
	電気・ガス・熱供給・水道業	101	15.8	50.5	33.7	
	運輸郵便	105	11.4	49.5	39.0	
	その他の業種	120	17.5	46.7	35.8	
	部門／役職					
経営コーポレート部門／役職者	213	22.1	63.8	14.1		
経営コーポレート部門／一般社員	200	20.5	61.5	18.0		
④ 現場部門／役職者	247	10.1	44.5	45.3		
現場部門／一般社員	270	5.9	39.3	54.8		

「十分対応可能」以外で回答した方

Q9 基準を達成する為にはどのような支援・対応が必要だと思いますか。（複数回答可）



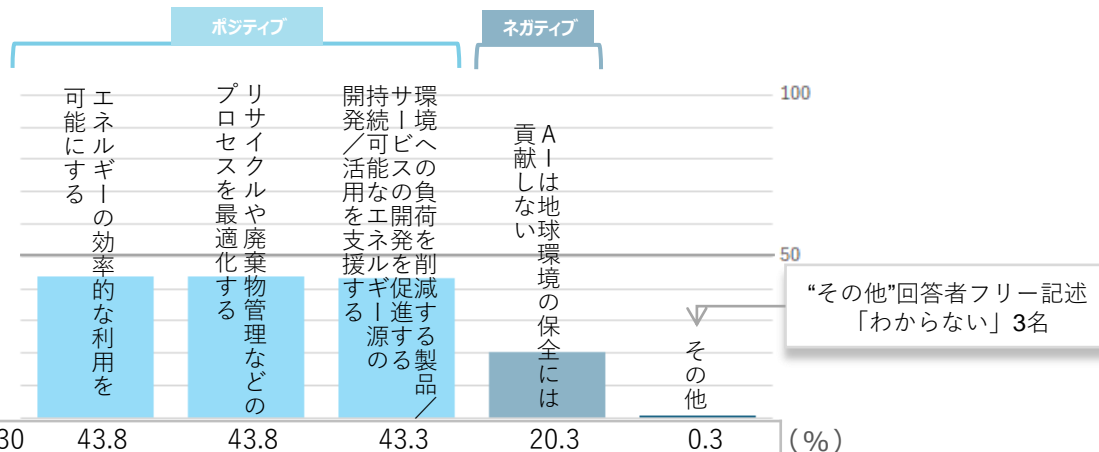
- 「十分対応可能」が13.9%と低い結果となった ①
- 情報通信業のみ「十分対応可能」が平均より秀でて高く、また「対応できない可能性がある」も最も低い ②
- 「対応していくためには大きな変革が必要」は全業種において50%前後と約半数になっている ③
- 現場部門では「対応できない可能性がある」が高く、特に一般社員では半数を超えており、経営コーポレート部門と比較して約3倍の差がでている ④

■ 必要だと思う支援・対策については各回答がそれぞれ全体数の約半数あり、特に偏りは見られなかった

Q10 AI 技術はグリーンIT／SDGs の分野にどのような観点で貢献すると思いますか。 (複数回答可)

各選択肢の回答総数を100%として
それぞれの回答数の割合を表示

- 全体 + 10%以上
- 全体 + 5%以上
- 全体 - 5%以下
- 全体 - 10%以下



	全体	930	43.8	43.8	43.3	20.3	0.3	(%)
業種	① 製造業	120	50.0	52.5	47.5	15.0	0.8	
	金融／保険業	120	39.2	45.0	43.3	20.0	-	
	情報通信業	117	44.4	42.7	52.1	17.1	0.9	
	教育学習支援	101	42.6	41.6	44.6	20.8	-	
	② 医療福祉	97	35.1	45.4	38.1	29.9	1.0	
	公務（自治体）	49	36.7	38.8	40.8	8.2	-	
	③ 電気・ガス・熱供給・水道業	101	57.4	46.5	35.6	16.8	-	
部門／役職	運輸郵便	105	41.0	37.1	46.7	23.8	-	
	その他の業種	120	43.3	40.8	38.3	25.8	-	
	経営コーポレート部門／役職者	213	51.6	62.0	50.2	9.9	0.5	
	経営コーポレート部門／一般社員	200	46.0	55.0	46.5	8.0	-	
	現場部門／役職者	247	45.7	38.1	41.7	23.9	0.4	
現場部門／一般社員	270	34.1	26.3	37.0	34.4	0.4		

“その他”回答者フリー記述
「わからない」3名

④

①

②

③

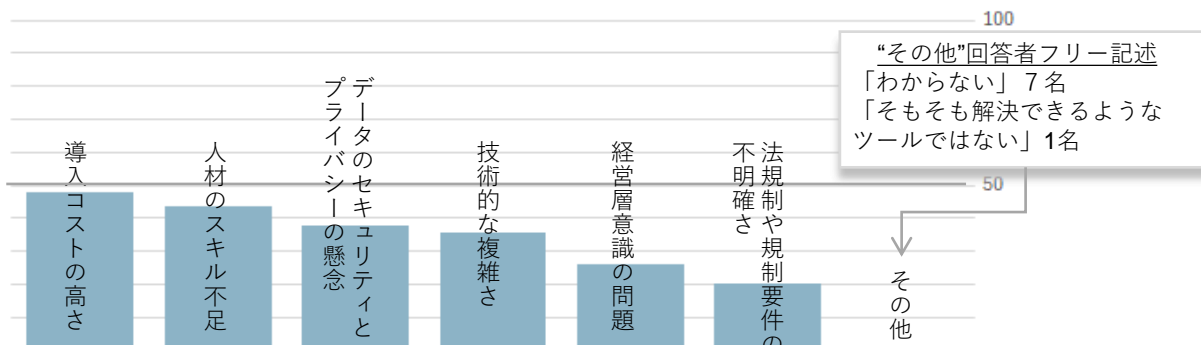
④

- 製造業においてはエネルギーの効率的な利用やリサイクルや廃棄物管理の最適化といった分野への期待がやや高い ①
- 医療福祉においてはネガティブな意見が平均より高く、またポジティブな意見も平均より低い傾向にある ②
- 電気・ガス・熱供給・水道業においてはエネルギーの効率的な利用といった分野への期待が平均より高く57%を超えている ③
- 経営コーポレート部門においてはリサイクルや廃棄物管理の最適化といった分野への期待が非常に高いが、現場部門、特に一般社員の同項目は低く、地球環境の保全には貢献しないといったネガティブ意見が平均より高い ④

Q11 AI 技術をグリーンIT として導入する際、その阻害要因はどこにあると感じますか。 (複数回答可)

各選択肢の回答総数を100%として
それぞれの回答数の割合を表示

- 全体 +10%以上
- 全体 +5%以上
- 全体 -5%以下
- 全体 -10%以下



全体		930	47.7	43.9	37.8	35.8	26.2	20.3	0.9	(%)
業種	製造業	120	50.0	43.3	32.5	35.8	25.8	20.8	0.8	
	① 金融／保険業	120	50.0	45.0	41.7	45.8	30.8	20.0	-	
	情報通信業	117	49.6	45.3	40.2	35.0	22.2	28.2	-	
	教育学習支援	101	53.5	42.6	39.6	32.7	24.8	13.9	1.0	
	医療福祉	97	50.5	46.4	38.1	34.0	35.1	21.6	2.1	
	公務（自治体）	49	44.9	22.4	40.8	34.7	20.4	16.3	-	
	② 電気・ガス・熱供給・水道業	101	34.7	41.6	31.7	36.6	16.8	19.8	1.0	
	③ 運輸郵便	105	47.6	55.2	40.0	37.1	30.5	25.7	1.0	
その他の業種	120	46.7	41.7	37.5	29.2	26.7	14.2	1.7		
部門／役職	経営コーポレート部門／役職者	213	53.5	47.9	53.1	35.7	33.3	22.5	0.5	
	経営コーポレート部門／一般社員	200	49.0	38.0	49.5	38.0	33.5	14.0	0.5	
	現場部門／役職者	247	47.0	48.6	25.5	33.6	21.5	21.9	0.4	
	現場部門／一般社員	270	43.0	40.7	28.5	36.3	19.6	21.9	1.9	

④

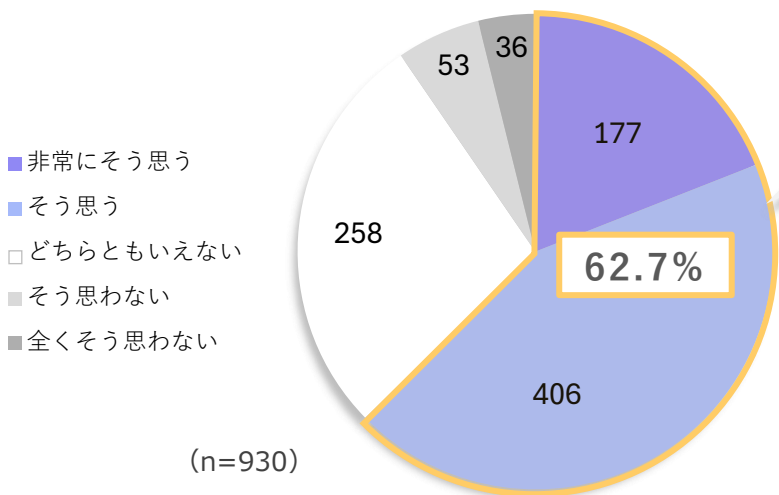
- 金融／保険業においては技術的な複雑さが阻害要因であると感じる意見が全体平均より高い ①
- 電気・ガス・熱供給・水道業においては導入コストの高さと回答する意見が全体平均より低い ②
- 運輸郵便においては人材のスキル不足と回答する意見が全体平均より高い ③
- データのセキュリティとプライバシーの懸念と回答する意見について、経営コーポレートと現場部門の差が際立っている ④

2

調査結果

-2. 回答者個人の業務についての調査

Q12 A I 技術はあなたの働き方に革新をもたらすと思いますか？



■TOP2「非常にそう思う」「そう思う」が683人:約62%と全体的に肯定傾向

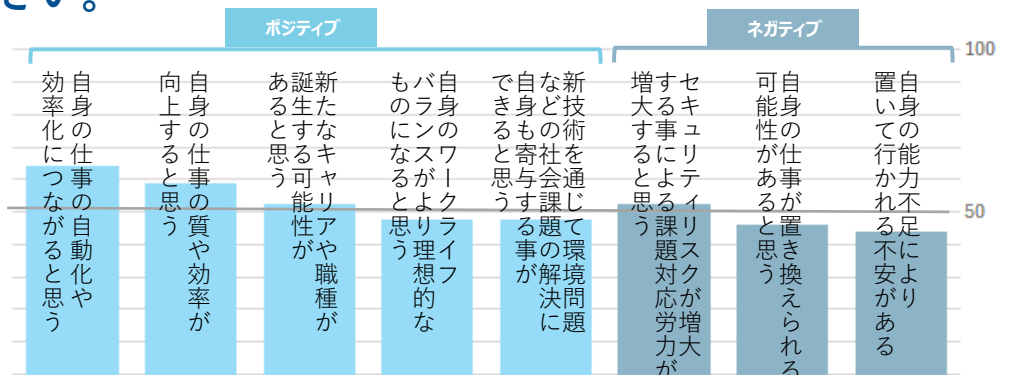
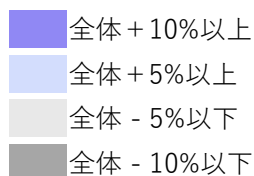
■他の設問に比べ全体的に肯定の意見が多くみられる

■部門/役職のなかで経営コーポレート部門/役職者のTOP2スコアが80%を超えている ①

		TOP2			BTM2				
		非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない			
全体	930	19.0	43.7	27.7	5.7	3.9			
業種	製造業	120	19.2	46.7	25.8	5.8	2.5		
	金融/保険業	120	20.0	45.0	26.7	4.2	4.2		
	情報通信業	117	21.4	49.6	22.2	4.3	2.6		
	教育学習支援	101	15.8	43.6	29.7	5.0	5.9		
	医療福祉	97	18.6	38.1	32.0	6.2	5.2		
	公務(自治体)	49	26.5	38.8	26.5	6.1	2.0		
	電気・ガス・熱供給・水道業	101	18.8	39.6	32.7	5.9	3.0		
	運輸郵便	105	17.1	41.0	31.4	3.8	6.7		
	その他の業種	120	17.5	45.8	24.2	10.0	2.5		
部門/役職	経営コーポレート部門/役職者	213	31.5	48.8	14.1	3.3	2.3	①	
	経営コーポレート部門/一般社員	200	30.0	43.0	24.0	2.5			
	現場部門/役職者	247	9.7	48.2	33.2	5.3	3.6		
	現場部門/一般社員	270	9.6	35.9	36.3	10.4	7.8		

Q13 これからの未来、企業とAIとの共存についてイメージすることについて あてはまるものをそれぞれお知らせください。

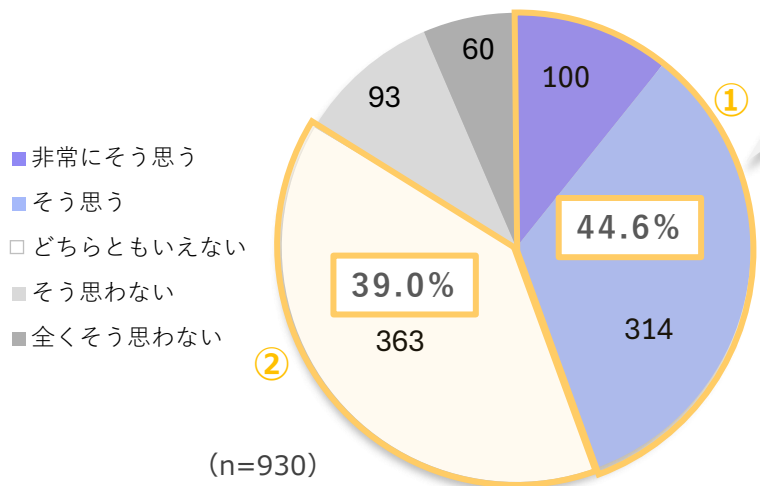
各設問の回答数を100%とし
TOP2「非常にそう思う」「そう思う」回答の割合を表示



業種		全体	64.2	58.7	52.6	47.6	47.4	52.5	46.0	43.9
	製造業	120	64.2	55.0	53.3	41.7	46.7	50.8	50.0	40.8
③	金融/保険業	120	63.3	57.5	52.5	45.8	43.3	58.3	52.5	44.2
	情報通信業	117	65.0	62.4	60.7	51.3	55.6	52.1	47.9	49.6
	教育学習支援	101	61.4	54.5	56.4	42.6	43.6	51.5	32.7	41.6
	医療福祉	97	62.9	61.9	54.6	46.4	46.4	56.7	50.5	47.4
②	公務（自治体）	49	71.4	55.1	44.9	61.2	59.2	59.2	42.9	44.9
	電気・ガス・熱供給・水道業	101	58.4	58.4	52.5	56.4	47.5	45.5	49.5	46.5
	運輸郵便	105	73.3	61.0	52.4	42.9	47.6	48.6	44.8	42.9
	その他の業種	120	61.7	60.8	42.5	48.3	43.3	52.5	40.8	38.3
部門/役職	経営コーポレート部門/役職者	213	74.2	70.0	61.5	51.6	59.2	62.4	57.3	49.8
	経営コーポレート部門/一般社員	200	71.0	67.5	53.5	54.5	50.5	56.0	48.5	45.0
	現場部門/役職者	247	60.7	57.5	50.6	45.7	42.9	52.2	44.1	43.7
	現場部門/一般社員	270	54.4	44.4	46.7	41.1	40.0	42.2	37.0	38.5

- 金融/保険業においてはネガティブ意見が全体平均より高い傾向がある ①
- 公務（自治体）においては自身の仕事の効率化やワークライフバランスの改善、AIを通じた社会課題解決へ自身が寄与できることへの期待が全体平均より秀でて高い ②
- 経営コーポレート部門、特に役職者においてはポジネガ両方において平均的に高く感度が高いように見受けられる一方で現場部門、特に一般社員においてはほぼすべての回答で全体より-5%以下、ここでも差がみられる ③

Q14 あなたは、これからの未来において様々な変革の中心を担う人財になっていきたいと 思いますか？



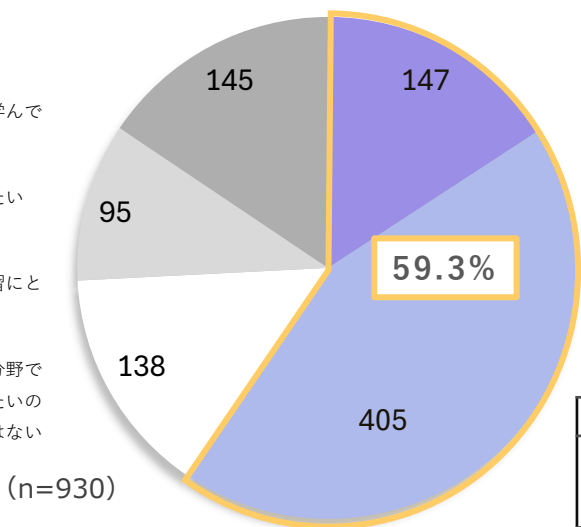
- TOP2「非常にそう思う」「そう思う」が414人:約45%と全体的に肯定傾向 ①
- 「どちらともいえない」が363人:約39%と、他の設問と比較して回答割合が高い ②

- 業界問わず「どちらともいえない」の回答が多い
- 経営コーポレート部門においては役職者・一般社員問わずTOP2スコアが50%を超えたが、現場部門では30%程度にとどまっており、差がみられる
また、BTM2「そう思わない」「全くそう思わない」のスコアでも差が出ている ③

		TOP2			BTM2			
		非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	(%)	
全体	930	10.8	33.8	39.0	10.0	6.5		
業種	製造業	10.0	34.2	44.2	6.7	5.0		
	金融/保険業	11.7	32.5	40.0	10.0	5.8		
	情報通信業	13.7	41.0	33.3	9.4	2.6		
	教育学習支援	6.9	32.7	42.6	10.9	6.9		
	医療福祉	8.2	39.2	28.9	15.5	8.2		
	公務(自治体)	10.2	30.6	36.7	14.3	8.2		
	電気・ガス・熱供給・水道業	12.9	26.7	47.5	5.0	7.9		
	運輸郵便	11.4	28.6	41.0	9.5	9.5		
	その他の業種	120	10.8	35.8	35.8	11.7	5.8	
部門/役職	経営コーポレート部門/役職者	213	22.5	46.0	26.3	4.2		
	経営コーポレート部門/一般社員	200	14.5	38.0	38.0	6.5	3.0	
	現場部門/役職者	247	5.3	27.5	47.4	12.6	7.3	
	現場部門/一般社員	270	3.7	26.7	42.2	14.8	12.6	

Q15 仕事とAIが共存する未来に向けて、 あなた自身は新たな技術習得や知識を身に付けていきたいと思いませんか。

- 新たな分野でも積極的に学んでいきたい
- 必要に応じて学んでいきたい
- 求められる範囲のみの学習にとどめたい
- できれば自分が進みたい分野で専門性を身に付けていきたいので今のところ学ぶつもりはない
- 学びたいとは思わない



■ TOP2 (※1) が552人:約59%と全体的に意欲的な意見が多い

■ 経営コーポレート部門/役職者のTOP2スコアが平均より高い ①

■ 現場部門/一般社員はTOP2 (※1) の回答が40%強にとどまっており、また、BTM2 (※2) の回答割合も平均より高い傾向となっている ②

	人数	TOP2 ※1		BTM2 ※2			
		新たな分野でも積極的に学んでいきたい	必要に応じて学んでいきたい	求められる範囲のみの学習にとどめたい	できれば自分が進みたい分野で専門性を身に付けていきたいので今のところ学ぶつもりはない	学びたいとは思わない	
全体	930	15.8	43.5	14.8	10.2	15.6	
業種	製造業	120	14.2	47.5	13.3	10.8	14.2
	金融/保険業	120	16.7	50.8	15.8	5.8	10.8
	情報通信業	117	18.8	42.7	16.2	6.8	15.4
	教育学習支援	101	9.9	49.5	15.8	6.9	17.8
	医療福祉	97	13.4	42.3	15.5	14.4	14.4
	公務 (自治体)	49	20.4	30.6	14.3	24.5	10.2
	電気・ガス・熱供給・水道業	101	17.8	35.6	15.8	10.9	19.8
	運輸郵便	105	17.1	44.8	9.5	10.5	18.1
	その他の業種	120	15.8	40.0	16.7	10.0	17.5
	部門/役職	経営コーポレート部門/役職者	213	30.0	50.7	13.6	3.8
経営コーポレート部門/一般社員		200	19.0	48.5	15.5	12.5	4.5
現場部門/役職者		247	10.9	42.9	15.0	8.9	22.3
現場部門/一般社員		270	6.7	34.8	15.2	14.8	28.5

3

まとめ

【AI技術関連について】

AI技術は自らの業界に革新をもたらすと考えている人が多く、その中でも「業務効率化」や「人件費削減」、「ヒューマンエラー/オペレーションリスクの低減」に寄与すると考えている人が多い。

環境問題などの社会課題の解決に役立つと考えている人は他の項目と比較すると少ない。また、「AI技術は自身の働き方に革新をもたらすと思うか」という観点では6割超の人がそう思うと回答した。ミクロ的（企業の業務）に利便性はもたらしてくれそうとは考えられているが、マクロ的（環境や社会）な影響を考えた際には、まだ懐疑的な部分がありそうである。

そして所属企業（組織）のAI技術の導入/活用状況は約半数が「導入済み」、「試験的に利用、実務利用は検討中」、「活用予定がある」と回答しており、**昨今の注目具合から導入傾向は漸次その数を増していくことが予想される。**

AI技術の導入/活用（を予定）の範囲はデータ分析や予測分析、自動化されたプロセスや作業のために活用したいと考えている人が多い。こちらは「AI技術がもたらしてくれそうと考えているもの」の回答結果とも一致している。

反対にAI技術の導入/活用の阻害要因と考えられているものは「導入コスト」、「セキュリティ・ガバナンスの問題」、「技術的な知識やスキルの不足」が挙げられる。

こちらの阻害要因から導入したいという声を従業員個人や該当部署だけが上げてもなかなか難しく、会社全体（特に経営層）の理解を得ることが導入/活用に繋がりそうなことが窺える。

AI技術を使いこなせる人材の準備（企業とAIが共存する未来に向けての人財育成が十分に行われているかどうか）についても聴取をしており、人財育成が十分に行われていると考える人は約3割であった。

昨今注目を浴びている分野ということもあり、**前々から十分な準備をしていた企業は多くはなく、活用していくための準備を各々がこれからも行っていく必要がある**そうである。

【グリーンIT関連について】

本調査の後半では「地球環境への負荷を低減できる取り組み」に関する聴取をした。所属企業（組織）のグリーンIT（環境に配慮した情報技術）の導入/活用状況は「はい」と「導入が予定されている」が4割弱で、所属企業（組織）の今後グローバル基準で要求されてくるグリーンIT/SDGs基準を達成する準備レベルは「対応していく為には大きな変革が必要になると思う」が5割超えで最も高い。その**達成のための必要な支援**としては**“産業界や学界との連携”**、“AI技術等の研究開発の推進”という考えが多そうである。こちらも準備やそのための行動がまだまだ必要そうだとわかった。

さらにAI技術がグリーンIT/SDGsの分野でどのような観点で貢献できそうかも聴取をしており、

- ・ エネルギーの効率的な利用を可能にすること
 - ・ リサイクルや廃棄物管理などのプロセスを最適化すること
 - ・ 環境への負荷を削減する製品/サービスの開発を促進する持続可能なエネルギー源の開発/活用を支援すること
- を選択している人が各4割強という結果であった。この結果から、効率化や最適化と親和性が高そうである。**阻害要因はAI技術と同様で導入コストの高さ、人材のスキル不足が懸念とされている。**

【イメージや自身の考えについて】

企業とAIとの共存についてイメージすることについては自身の仕事の自動化や効率化に繋がる、または質や効率が向上すると考えている人が多く、未来において様々な変革の中心を担う人財になっていきたいと考える人、新たな技術習得や知識を身に付けていきたいと考える人が多い傾向がわかった。AI技術を学ぶこと、活用することやグリーンITの考えを理解すること等は比較的新しいものに該当するため、変革の中心を担う人財になっていきたいと考える人、新たな技術習得や知識を身に付けていきたいと考えている人には所属企業におけるプレゼンスを高めることができそうであることが窺える。

つなく ∟ むすぶ ∟ かわる



net one